

7月例会は「カノン」

母と娘三姉妹の日本映画

例会のお知らせ

■名称／第97回例会『カノン』

■日時／7月26(木) ①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、
③ PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は
加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／カノン

■監督／雑賀俊朗(「リトル・マエストラ」の監督)

■出演／比嘉愛未、ミムラ、佐々木希、桐山漣、長谷川朝晴、古村比呂、島田陽子、多岐川裕美、鈴木保奈美

■データ／2016年、日本、123分、ドラマ／家族

■ストーリー(ネタバレ、公式ホームページから抜粋)

富山県黒部市に住む小学校教師の次女・岸本藍(比嘉愛未)、東京で夫と二人の子どもと暮らす専業主婦の長女・宮沢紫(ミムラ)、金沢で老舗料亭の若女将業に勤む三女・岸本茜(佐々木希)。祖母の葬儀で久しぶりに会った三姉妹は、遺書を開き、驚きの事実を知る。

「許して下さい。あなた達のお母さんは生きています。」

母・美津子(鈴木保奈美)は、姉妹がまだ幼かったころ、父の死をきっかけに酒に溺れ、19年前に火事で重傷を負い入院してからは一人離れて暮らしていた。姉妹は金沢で料亭を営む父方の祖母・辰子(多岐川裕美)に引き取られ、母宛の手紙を書き続けたが返事はなく、数年前に母は亡くなったと祖母から聞かされていたのだ。その母が生きている……。

葬儀の翌日、金沢から母がいる富山の介護施設へ向かう三姉妹。そこには長年の飲酒が原因のアルコール性認知症を患い、娘たちを思い出せずにいる母の姿があった。三姉妹は衝撃を受け止めきれないまま、それぞれの日常に戻る。

職場や家庭では澁刺と振る舞う三姉妹だが、心の奥には母から受けた長年の傷が残っていた。藍は市役所職員

富山ー金沢ー東京を舞台に繰り広げられる 母と三姉妹、家族再生の物語。



の恋人・聡(桐山漣)からプロポーズを受け、彼の母(古村比呂)にもあたたかく迎え入れられるものの、二人の親密な親子関係と自分の生い立ちを比べて自信をなくしてしまう。東京の紫は、夫の和彦(長谷川朝晴)から子育てや家事に関する暴言を浴びせられ、言い返せない。女将業の重責を担う茜は、かつての母のようにアルコールに頼るようになっていた。

そんな中、藍は聡と一緒に母を再訪する。施設の部屋には母が宝物のように大事にしているオルゴールがあり、蓋を開けると、パッヘルベルのカノンが流れ出す。それは母娘が幸せだった頃、母が教えてくれて、三姉妹で連弾していた思い出の曲。そして別々に暮らすようになった後も、三姉妹が母が見に来ることを期待して、ピアノの発表会で演奏した曲だった。あの時の曲を、母はまだ憶えている……。そう確信した藍は紫と茜に連絡を取り、母の過去を探る旅に誘い出す。

母はどんな理由で三姉妹のもとを去り、どんな思いで生きてきたのか？

祖母はなぜ姉妹に嘘をついたのか？

黒部で母がアルコール依存症の治療を受けた病院や、退院後に住み込みで働いていた場所を訪ね、雇用主の澄子(島田陽子)をはじめとする人々から母の思い出話を聞く三姉妹。やがて彼女たちが真実に辿り着いた時、眩しい光の中で「カノン」のピアノ三重奏が再び響き渡る。

私の映画KAN

「焼肉ドラゴン」 鄭義信監督

真木ようこ、井上真央、桜庭ななみ三姉妹の強烈な関西弁と感情むき出しの生身でぶつかる掛け合いから始まる日常に圧倒されながらも映画にぐんぐん引き寄せられました。「たとえ昨日がどんなでも、明日はきっとええ日になる」そんなアボジの言葉が胸に迫る。舞台は昭和44年、高度経済成長期の真っ只中、万博博覧会の頃。伊丹空港のそばの集落の一角にある「ホルモンや」。時代の波に翻弄されながら泣いて笑って、力強く生きる在日韓国人の家族のお話です。それぞれ性格の違う三姉妹、おとなしい末息子。片腕を戦争で失いながらも家族のために毎日懸命に働く父(アボジ)、子供たちを愛し、夫を支え懸命に生きる母(オモニ)。映画館中に広がる笑い声、在日であるが故の理不尽な日常と息子へのいじめに涙する声。故郷へ帰れないアボジとオモニの思いがひしひしと伝わってきました。姉妹それぞれの人生への旅立ち、国有地からの立ち退き、明日への希望をみつめて一家の別れは時代を象徴するかのごとく家の取り潰しで終わる。俳優陣の中でもアボジとオモニはとても味のある韓国人俳優さんでした。演劇界で名を馳せる鄭義信監督は姫路出身です。(和)

■題名/焼肉ドラゴン

■監督/鄭義信 ■原作/夢枕獏

■キャスト/真木よう子、井上真央、大泉洋、桜庭ななみ、大谷亮平

■2018年、日本、126分

前回例会の報告

6月6日の例会は、会員以外の方も優良で入場できる特別例会として、「人生フルーツ」を鑑賞しました。

自らが設計した団地に住み、人が暮らす現実的な理想の生活空間を設計している建築家の夫とその妻の、実にまっとうな考え方を実践して暮らす老夫婦のドキュメンタリー作品でした。

同世代の参加者も多く、出口に置いたアンケート・感想もいつになく多く寄せられました。日々の生活を豊かに過ごす夫婦に、共感し観ているだけで心が潤おっていくような作品でした。

このような良質のドキュメンタリー映画は、観る機会が少ないので、映画鑑賞サークルならではのことだと思います。「たいへん良かった」という評価が多かった。

一般の有料参加者もよそより少し多かったため、赤字にはならずすんだと思います。

参加会員99人、明石シネマクラブからの参加者8人、招待3人、一般229人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

チャールズ・チャップリンの名作を50回記念例会としてお届けします。

■名称/

『モダン・タイムス』

(1936年、アメリカ、87分、モノクロ)

■解説/製鉄工場で

働くチャーリーは、ベルトコンベアーを

流れる部品にねじを回し続けるという単純作業を繰り返していた。

チャーリーは労働者の食事時間を節約する自動給食マシンの実験台にされ散々な目に合わされるが、ある勘違いから逮捕され刑務所に。

パンを盗んだ浮浪少女と出会い、意気投合したチャーリーは、2人のために家を建てるという夢を胸に一念発起とばかり働き出す。その後少女が勤め始めたキャバレーのウェイトアの職を得たが...

■監督/チャールズ・チャップリン

■出演/チャールズ・チャップリン、ポーレット・ゴダード 他

■日時/8月30日(木)

①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■記念講演 PM 3:30-PM 4:00

林未来(元町映画館支配人)

■場所/アスピア明石9階子午線ホール

(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kalogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 132人(6月6日現在)

